

平成24年度M I E 職員力アワード部門賞受賞取組概要

※応募を受け付けた順に掲載

部局名		募集部門	活動テーマ	取組概要
1	教育委員会	成果向上部門	奨学金制度を墨守せよ！	平成14年度から始まった三重県高等学校等修学奨学金は、未収金が増加し、平成22年度末にはその額が63,945,394円となった。債権回収を外委託するも解決にならず、2年後に未収金は1億円に達することが見込まれ、奨学金制度の存続が危ぶまれていた。そこで、予算経理課修学支援グループでは「正確さ」をキーワードに債権を整理し、「誰もがわかりやすいルール」・「公平な取り扱い」・「誰でもできる仕組み」により、滞納整理を行ったところ未収金は41%減少し、現在も減少し続けている。
2	県土整備部	協創推進部門	熊野古道「浜街道」復活プロジェクト	紀伊半島大水害により熊野建設事務所関係で300箇所弱におよぶ災害が発生した中、海岸に漂着した大量の流木、ドラム缶や大型発砲スチロール等を地域活動団体「ビーグラッド」や学生団体「IVUSA」（イビューサ）等の民間団体の協力により処理し、風光明媚な海岸線を回復した。また、一部流木の無料配布により約160万円の経費を削減することができた。
3	地域連携部	自由テーマ部門	なせば成る！紙決裁ゼロへの挑戦	地域連携部では、全庁の公文書管理体制（システム等）を見直し、他県の事例をヒントに、履歴を残す厳格な公文書管理をすることで、リスク対応にもつながる「電子決裁率向上」という「実証実験」に、部内全職員で取り組んだ。電子決裁率は、平成15年の文書管理システム運用以来、数%台に低迷していたが、今回の試みでは、本庁、地域機関とも、開始1ヶ月で約50%を達成、その後も同水準を確保している。
4	病院事業庁	職員力向上部門	業務力アップに向けた簿記部の取組	病院事業庁に配属された職員は、簿記学習の必要性は感じているものの、「簿記学習は難しい」といった先入観や「独学では限界がある」などの理由によって、なかなか簿記力を習得できない状態が続いていた。そこで、有志の勉強会を設け、皆が同じテキストで同じペースで簿記検定に向けて勉強できるように、学習プログラムを作り、毎週月曜日の業務終了後、学生時代の「部活」をイメージした活動を開始した。そうした結果、業務力向上や検定合格という成果に加えて、皆が勉強する雰囲気も醸成することもできた。
5	教育委員会	効率化推進部門	学校事務のウィキ化	県立学校には「事務提要」と呼ばれる加除式の共通マニュアルが整備されていたが、選ばれた数名の事務職員がその更新役を担っていたため負担が大きく、次第に更新されなくなっていた。しかし学校事務職員の減少や学校事務の複雑化により、ますます共通のマニュアルが必要とされた。そこで、いつでも誰でも編集、更新作業が簡単にできるフリー百科事典ウィキペディアが使用している「mediawiki」というフリーソフトウェアの特徴に注目し、マニュアルのオンライン化に取り組んだ。初めは有志の取組であったが、必要性が認められ組織としての取組に発展した。
6	総務部	成果向上部門	仕事を見直して滞納者を50%削減！	紀州県税事務所紀南県税課はこれまでの既存の滞納整理のやり方を見直し、滞納者1人ごとに進捗管理を行い、少額案件ではほとんど行わない搜索を前提とした現地調査を実施したり、催告文書をカラー化するなど一歩踏み込む滞納整理を行った。この結果、1年間で滞納人員を50%以上削減するというこれまでにない成果をあげることができた。また、成果は2倍にあがっても業務量は減り時間外勤務はほぼゼロを実現している。
7	教育委員会	成果向上部門	生徒の夢かなえよう！	亀山高校では、長引く不況に「シャープ危機」が加わり、生徒の進路実現が憂慮されつつある中、生徒の社会的自立に最も必要な能力は「コミュニケーション力」であると考え、学校経営上の今年度の最重要方針を「コミュニケーション力の育成」と定め、先生全員が結束して、多面的な取組を展開した。特に、新たに導入した「面接ノート」により、生徒がどの先生に対しても面接指導をお願いできる「全先生による面接指導」の仕組みが確立し、就職試験の「一発合格率」が78%と、昨年度の64%から飛躍的に上昇するなどの成果を得た。
8	環境生活部	協創推進部門	学生とのコラボによる「伊勢ぶらり」プロジェクト	文化振興課では、伊勢市の古地図や古い絵葉書等を活用した絵地図等に現在地を表示して町歩きを支援するアプリ「伊勢ぶらり」の構築を多様な主体と協働で構築し、ウォーキングイベントの実施も行った。アプリ構築には地元の皇學館大学学生・教職員が中心となり、ワークショップを行いながら内容を検討し、その結果を踏まえ、学生自身がガイドを担う町歩きイベントを行った。アプリの普及については、twitterやFacebookといったSNSを最大限利用し、その結果3500を超えるダウンロード数を達成できている。